

# えきまち一体で みんなの安心を

この地域では、2020年に高輪ゲートウェイ駅が開業したほか、大規模な都市基盤の整備を進めています。2025年3月にはTAKANAWA GATEWAY CITYがまちびらき。この地域ならではの「えきまち一体」のまちづくりでは「安全確保計画」としてこれからの都市を先駆ける仕組みを構築しています。それは“道”を確保し、“備え”を共有し、さらに“ひと”をつなぐ仕組み。ここは「安心・安全」を営む街になります。

## 平時も有事も滑らかに 「ひと」をつなぐネットワーク

この街を特徴づけるのは、鉄道運行情報や街の情報をリアルタイムに伝えるデジタルサイネージ。同時に、災害時にも途絶しない強靱な通信インフラを整備。高速通信環境を活用した情報連携基盤「スマートプラットフォーム」による情報連携においては、平時と非常時でシームレスに平時・非常時に活用できる情報を集約します。さらに、災害対応上重要な場所にカメラやセンサー等を配置し、街の「密度」を可視化します。

A B C

C 平時からの防災訓練や災害時マニュアルの整備



E 再開発等による建築物の耐震化の促進



G 屋外の安全な一時退避場所の確保



M 脱炭素化の推進



L 業務継続に必要なエネルギーの確保



## インフラとライフラインを保つ、 非常時でも「自立可能」な設備

エネルギーシステムも大きな特徴です。JR電力や非常用の発電機、また都市ガスを活用して発電するCGSなどから熱供給でき、災害時にも自立可能なしくみをつくりました。一時滞在施設では、発災時から72時間、電気・熱・水・通信を継続供給。空調の利用も可能に。加えて、地区内の企業が業務を継続するためのインフラとライフラインを確保します。

J K L M



## 防災が念頭におかれた 「えきまち」設計

様々な領域で開発が進んでいる、この街。災害時には安全かつ円滑に避難できるように、避難経路となる「道」を整備しています。デッキレベルを中心に、駅から一時滞在施設等をつなぐ道。東西の市街地をつなぐ道。歩行者専用の道。災害時に機能する広場や、国道15号沿いに一時退避場所を設けました。また各所に一時滞在施設や防災備蓄倉庫を整備・確保しています。地域冷暖房施設の蓄熱槽水は災害時一時滞在施設等でのトイレ用水に活用するほか、この地域の建物耐震化も促進していきます。

D E F G H I

A 平時と非常時がシームレスに切替わるスマートプラットフォーム

D デッキレベルを中心とした退避ネットワークの形成

B サイネージ等を活用したえきまち一体の情報発信

F 東西方向の退避ネットワークの確保

H 安全を確保するための防災備蓄倉庫の整備

I 災害時に利用できる雑用水の整備

I 開発に伴う一時滞在施設の整備の促進

K 災害時におけるライフラインの供給継続への取り組み

# 品川～田町エリアに広がる「安心・安全」のまちづくり

## エリア防災の推進

災害時に求められる、地域の医療機関との連携。この街の災害時の対応力の向上を目指し、医療連携機関と連携した防災訓練を実施する等、有事の連携体制の構築を進めています。地域においては、人員・物資の輸送ルートを増やすべく、水陸のネットワークの拡大を検討しています。さらに、エリア内の連絡体制の構築、災害シミュレーション等を積極的に行うほか、教育機関とも連携しながら安全安心なまちづくりの啓発活動に取り組めます。

N O P

○ 国道15号沿道の一時退避場所・帰宅支援機能の確保

N EV充電設備を活用した、地域への電力供給

F 東西方向の退避ネットワークの確保

R 地域医療機関との連携

S 他の安全確保計画策定地区等との連携

T 水辺の活性化と防災力向上を見据えた取り組み

○ デジタルツインによる災害のシミュレーション

○ 蓄熱槽水の災害時活用

この地域は安心・安全のために  
創造的に成長していきます

### OUR GOAL 目標

- 1 駅と街が一体となった、安全・安心な都市基盤
- 2 非常時のネットワークも完備した、創造的なエリア活動を行う街
- 3 周辺地域も支援する、広域防災拠点

ここは新しい「えき」と「まち」が一体となった現在進行形の地域。国内外から多様な人々が訪れる都心のスポットとして、誰もが安全・安心を得られる防災基盤を整備していきます。さらに求められるのは、非常時にも滑らかにシフトする、高度な情報基盤。それは、平時のエリア活動でも活かされていきます。そして、地震や浸水・停電などの被害時にも周辺地域をバックアップできる、エリア全体の防災力を牽引する場所に。この街に集う皆さんとともに、発展していきます。

## 地域の防災力を高める 周辺地域への貢献

この地域あつての、この街。有事の連携はお互いに欠かせないものとなります。たとえば周辺地域での停電時には、EV充電設備による電気供給を検討しています。そして、品川駅北周辺地区では約2万㎡の蓄熱槽の水を活用し、火災発生時の消防用水に。国道15号に面する広場等では、物資配給も行える帰宅支援の準備を万全に。いわば地域への「安全のおすそわけ」ができる体制を構築していきます。

F R S T U

### 都市再生安全確保計画とは？

品川駅・田町駅周辺地域では、都市再生特別措置法に基づく「都市再生安全確保計画」を策定しています。この計画は、大規模な地震が発生した際に多くの人が集まる市街地に滞在する人々の安全確保を図るために必要な取組を、行政等の「官」と都市開発事業者やインフラ事業者といった「民」が連携して議論し、ハード・ソフトの両面にわたる取組を取りまとめた計画です。ここでは、本地域での計画の体制や特徴を説明します。



#### 1 多様な街の関係者が共に議論して作られた計画

本地域のまちづくりに係わる民間事業者、インフラ事業者、行政が集まって議論を行い、この街の安全安心の確保・価値を高めていくことを目標に計画が生まれました。民間だけでも、行政だけでもない「官民が連携するための計画」です。



#### 2 “つくっておわり”ではない、成長していく計画

この計画の大事なことは「つくっておわり」ではないということです。この街を担う人たちがつくった計画だからこそ、「みんなのための、自分ごと」としての意識を持って、状況の変化に応じて計画を成長させていきます。



#### 3 街の運営につながる計画

この計画は、街の運営とつながっていることも特徴です。計画作成に係った事業者による「安全安心WG」や施設運営者が集まるコミュニティがその運営の一端を担い、新しい「まち」における公共の仕組みを目指しています。私たちは計画作成後から継続的にワークショップを行い、この街の安全安心の運営方法を考えてきました。その内容をベースに街を運営し、継続的な活動によって常にアップデートしていきます。



## Information

発行：高輪ゲートウェイ駅周辺地区 広域連携連絡会 安全安心WG  
<https://takanawagateway-am.jp>

詳しくはこちら！



一般社団法人  
高輪ゲートウェイ  
エリアマネジメントHP

